

「宮津まちづくり会議」設立総会

日時：平成26年3月13日(木)

場所：宮津商工会議所

■ 「宮津まちづくり会議」設立趣旨の説明

※別紙設立趣旨書参照

■ 協議事項

(1) 「宮津まちづくり会議(仮称)」規約の承認について

※別紙規約参照

原案どおり承認。

(2) 副会長及び監事の選任について

委員の互選により商店、金融機関関係より選任。

(3) 顧問の委嘱について

会議の承認を得て行政、団体関係より委嘱。

(4) アドバイザーの委嘱について

会議の承認を得て金融機関関係より委嘱。

(5) 地域が抱える問題と課題について意見交換を行いました。

○ 1人の城主がまちを作っていく時代ではない。市民の多くの意見を聞きながら、市民が熱をもって取り組む必要がある。ただ活動の熱を広げる難しさ、重要さを感じるころもある。

○ ソフト面、取り組む姿勢、人材の育成の見直しが必要。地域の縛りがきつすぎる。大学卒業者を受け入れる会社の体制ができていない。地域としてできないと一定の教育を受けたものが出て行ってしまう。地域、企業それぞれ掘り下げて考える必要がある。

○ 中町を立ち上げる際の議論として観光対応のまちづくり、また浜町地区との連携が上がっていたが、中々進んでいない。現在は、地域の役に立てる商店街として活動しているが、

この議論が最後のチャンスではないか。

- 色々な人の意見を聞くことも必要だが、リーダーを作っていくことが大切ではないか。
- 個々の事業者、個人は自分のことで精いっぱい。地域に目を向ける余裕がない。
- 大学へ進学し、Uターンで宮津に戻って来ない
→地域が疲弊している中で、親も「あきらめ」の気持ちを持ってしまっている。
- 個々では出来ないことでも皆で取り組めばなんとかなる。
- 市が事業を進める時には、結果だけが報告される。経過も含めて説明してもらわないとわからない。(市の進め方全般の話)
- 浜町の再開発用地は20年間空地となっており、開発の余地がある。
- 過去については否定することから始まる。浜町についてもいかに子や孫に一生懸命やったと言える人が何人集まれ、やれるか。公設市場や海の活用(海の駅)島崎公園の活用も考えなければならない。
どこに何が必要か。ただの芝生では税収もあがらない。商いも考えながら、楽しんでもらう場所も必要。市民だけでなく、外から来た人も同じような扱えるスペースとしたい。